佳作

私が愛する思い出と未来

福島県会津美里町立本郷中学校
２年　坂井　花

私は小学校低学年の頃から天文学が好きになり、図鑑や天球儀などいろいろな物を使いたくさん宇宙や星座を勉強してきました。そのときの私の将来の夢は『天文学者』になることでした。これから話すのは昔の私が天文学に関わるいくつかのエピソードです。

まずはじめに天文学を勉強して初期の頃、国立天文台の特任教授をつとめる渡部潤一先生の講演会に行ったことについてです。渡部潤一先生は私にとって天文学の道を大きく開いてくれた方で、潤一先生が監修・執筆をした本はどれも分かりやすく、面白いのでよくお出かけのおともや勉強の後、寝る前などいろいろな場面で読んでいました。また会津若松生まれだという同じ会津地方出身の共通点もあり、喜んだ記憶があります。前おきが長くなってしまいましたが、次に講演会の話をします。私にとっては初めての講演会で、どんな感じなのかイマイチよく分かっていませんでした。しかも会場に行くと子どもは私以外ほとんどいなく、ますます不安でした。ですがそんな不安もふき飛ぶぐらいとても興味深い内容で楽しかったです。さらに帰り道でＮＨＫの方に講演会の感想をインタビューされた事もあり心に残っています。この出来事があってからますます天文学への熱が込もりました。

次に二つ目です。これも渡部潤一先生が関わる出来事です。小学中学年ぐらいの頃、私は夏休みの自由研究で宇宙や惑星などさまざまなことをノートにまとめて調べていました。また他にも発泡スチロールを丸く切り、紙ねんどでコーティングして惑星の模型を父と作成したりしていました。そしてその年ではちょうど夏休みに渡部潤一先生も参加する『星を見る会』が開催される予定がありました。父と自由研究で使っていたノートを持ち、開催場所に向かいました。『星を見る会』は広い場所に人が集まり、同好会や潤一先生のような教授の方などが星座や宇宙についての説明をしてくれる会です。小さい子どもから高齢の方まで幅広く参加しているので、内容も分かりやすく、かつ勉強になることをお話してくれます。私が行った時は木星や土星をなかなか目にしない大きな天体望遠鏡で観察しました。一応私が持っている望遠鏡も木星が見えると説明書には書いてありますが『星を見る会』で見た木星とは段違いできれいには見えませんでした。そのくらいのしょうげきがありました。木星や土星の観察の後、私と父は潤一先生に自由研究のノートを見せに行きました。その時、い

つも潤一先生の本を見て勉強していることや、講演会のことなども話しました。潤一先生は自由研究のノートを見て、「この年齢でこれだけ調べてすごいや、ありがとう」など優しく話してくれました。それが中学２年となった今でも一生の思い出だと思っています。それからも天文学の勉強はもちろん、裏磐梯のきれいに星空が見える所で早見表を使いながら星座の観察をしたりなど、いろいろなことをしてきました。ですがそれが続いたのは小学校まででした。

中学生に上がり、勉強も難しくなり、部活も運動部に入部したためほとんど休みなしという趣味の時間をうまく使えなく天文学に触れる時間がほぼゼロになるぐらい時間がありませんでした。そしてさらに私の前にできた壁が理学が文学よりもできていないことです。これは天文学者を夢としてきた私にとってはすごくつらかったです。どんなに頑張っても結果は伸びず、しまいには天文学者というハッキリした夢から『天文学に関わる仕事』に変わってしまいました。

そして現在。私は天文学への仕事を目指すことを一度やめました。理由はもっと周りを見てゆっくりでもいいから自分が続けられる職業を見つけたいからです。結局、理学ができないことで、自分が５年以上目指してきた夢が切れてしまいました。ですが今でも使ってきた図鑑も潤一先生の本も、天球儀も望遠鏡も自由研究のノートも部屋にきれいに飾っています。夢はあきらめたけれど、天文学の世界には居続けたかったからです。そんなわがままな私が過去の私に言いたいことは天文学を見つけてくれてありがとう。そして未来の私へは天文学を好きでいてくれてありがとうと伝えたいです。なぜ未来に向けているのに分かっているように言っているのか、それはどんなに生活や身の周りが変わっていても天文学はいつまでも好きでいられる自信があるからです。そんな宇宙をこよなく愛す私の思い出と未来でした。